

2026年7月〜9月

竹久夢二美術館 企画展プレスリリース



あなたも  
目利きに!



— 夢二絵の見かた & 楽しみかた —

入門展

竹久夢二



2026 7/4 Sat » 9/27 Sun

竹久夢二美術館  
TAKEHISA YUMEJI MUSEUM



令和の時代も注目が高く、各地で展覧会が開催される画家・詩人の竹久夢二(1884-1934)。

美人画やデザイン、さらに恋愛と旅を重ねた人生も含め、大正ロマンを象徴する存在として人気を集めています。

本展ではポイントを押さえながら、夢二作品を鑑賞するコツをわかりやすく紹介します。第1章「夢二絵を知る《10のキーワード》」では、夢二絵や解説文によく登場する10の語句より作品を読み解きます。第2章「夢二絵をひもとく《10の表現》」では、日本画をはじめとする10の技法及び表現形式から作品を展示し、それぞれの画風や特徴より夢二絵の魅力に迫ります。

竹久夢二入門として、初めてご覧になる方はもちろん、通な人にも多くの発見をして頂ける趣向の展覧会です。楽しみながら夢二絵の目利きになりましょう！

## 展覧会の見どころ

### ① 夢二ビギナーに役立つキーワードを紹介

夢二絵や解説文によく登場する独特の語句の意味を知ると、作品理解がより深まります。特に重要な10の語句をピックアップし、そのキーワードに沿った作品や資料を紹介します。

### ② 多彩な画業を10のジャンルに分類して作品展示

マルチアーティストだった夢二。その画業を10のジャンルに分類し【日本画】【油彩画】【水彩画】【ペン画】による肉筆作品と、印刷を媒介としたグラフィックアートに類する【木版画】【デザイン〈紙小物〉】【デザイン〈広告図案〉】【楽譜】【雑誌】【書籍】を展示します。

### ③ サイン&箱書きにも注目！

鑑賞の手がかりとなる、夢二が残したサイン(日本画及びコマ絵)を一覧にして紹介。また掛軸が収められた箱の「\*箱書き」も公開します。

\*書画などを収めた箱に、中の品の名称や作者の署名、押印などを記したもの。また鑑定家が真作であることを保証し署名・押印したものです。

## 竹久夢二 プロフィール

センチメンタルな画風の(夢二式美人画)をはじめ、恋多く、旅も重ねて大正ロマンを象徴する存在として広く知られる。  
明治・大正期の雑誌に発表したイラストレーションをはじめ、日本画・水彩画・油彩画・木版画、さらにデザイン分野の作品を手掛け、詩、童謡の創作にも才能を発揮し、詩画を融合させた芸術を開花させた。



TAKAHISA YUMEJI  
明治17年昭和9年(1884-1934)  
画家・詩人。本名・竹久茂次郎(もしろう)。岡山県生まれ。

- ①コマ絵 ②夢二式 ③夢二画集 ④詩人 ⑤宵待草 ⑥港屋 ⑦抒情画 ⑧セノオ楽譜 ⑨他万喜・彦乃・お葉 ⑩旅

## 第1章

### 夢二絵を知る《10のキーワード》

#### 【コマ絵】



#### 1. 無題(『直言』コマ絵) 1905年

【コマ絵】は雑誌等の誌面に文章と内容的な関連をもたずに描かれた小さな絵で、明治30年代半ば～末期に流行。

日露戦争で犠牲になった庶民の姿と戦争の悲哀を表現した夢二のコマ絵が、社会主義機関紙『直言』に掲載された。

#### 【夢二式】



#### 2. 水竹居 1933年

個性的な夢二の存在や画風は【夢二式】と呼ばれ、特に「夢二式美人」という言葉が1910年代より使用される。

「水竹居」は死去する前年のドイツ滞在中に、ベルリンの女性をモデルにした、最晩年の夢二式美人画。

#### 【港屋】



#### 3. 千代紙「大椿」1914年

夢二デザインの商品を販売した港屋絵草紙店(通称【港屋】)は、1914年に東京・日本橋に開店。千代紙や和装小物の半襟などの人気が高く、女学生や大正時代の文化人も港屋に通った。

#### 【他万喜・彦乃・お葉】



#### 4. 岸他万喜・笠井彦乃・佐々木カネヨ(お葉)

恋多き人生を送った夢二。特に関わりが深かった恋人は写真左より【他万喜・彦乃・お葉】の三人。彼女たちは恋人として、またある時はモデルとして日常生活や創作活動で夢二に強く影響を及ぼした。

## 第2章

### 夢二絵をひもとく《10の表現》

- ①日本画 ②油彩画 ③水彩画 ④ペン画 ⑤木版画 ⑥デザイン〈紙小物〉 ⑦デザイン〈広告図案〉 ⑧楽譜 ⑨雑誌 ⑩書籍

#### 【油彩画】



#### 5. モントレーの丘から 1931年

近代の日本においては、西洋美術の影響で【油彩画】が盛んに紹介されるようになり、夢二自身も高く関心を寄せていたが、自身の制作数は、日本画と比較すると圧倒的に少ないことが特徴。

本作は夢二が外遊で訪れたカリフォルニアのモントレー半島の海辺が描かれている。

#### 【水彩画】



#### 6. まりつき 1927年

夢二の【水彩画】は、雑誌に掲載する挿絵等の原画のために制作されることが多かった。

「まりつき」は詩人サトウ・ハチローの詩に添えられた挿絵(雑誌『小学少女』掲載)。

#### 【デザイン〈広告図案〉】



#### 7. 「雛による展覧会」ポスター 1930年

ポスターなどの【デザイン〈広告図案〉】も手掛けた夢二。大正末～昭和初期には商業美術の分野でも活躍した。

このポスターは自身と仲間たちで製作した人形展のために作られた。個性的なレタリングにも注目。

#### 【雑誌】



#### 8. 『中央文学』十二月号 1920年

夢二は表紙絵や挿絵などを2000冊以上の【雑誌】に寄稿、画家デビューも雑誌へのコマ絵投稿がきっかけだった。

文芸雑誌『中央文学』は、創刊号から計56冊の表紙絵を夢二が飾った。

# 🌸 展覧会概要

## 展覧会名称

あなたも目利きに! 竹久夢二入門展  
—夢二絵の見かた&楽しみかた—

## 主催及び会場

竹久夢二美術館

## 住所

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-2

## Tel

03-5689-0462

## 会期

2026年7月4日(土)~9月27日(日)

## 休館日

月曜日(ただし祝日の場合は、翌火曜が休館)

## 開館時間

10:00~17:00(最終入館 16:30)

## 交通

東京メトロ千代田線<根津駅>及び  
南北線<東大前駅>よりいずれも徒歩7分  
JR上野駅 公園口より徒歩20分



## 入館料

一般 1200円 大・高生 1000円  
中・小生 500円  
※弥生美術館と2館併せてご覧頂けます。

## ホームページ

<https://www.yayoi-yumeji-museum.jp>

## ギャラリートーク

7/11(土)、8/8(日)、9/12(土)  
いずれも14時より(約45分)

\*企画展担当学芸員が展示解説を行います。  
参加費無料(要入館料)



## お知らせ

竹久夢二美術館学芸員・石川桂子 監修

古屋兎丸

「ユメジエホン」連載開始!



古屋兎丸・作「ユメジエホン」が  
ビッグコミックオリジナル 2026年5月増刊号より  
連載がスタートしました。

夢二を題材にした本格的なストーリー漫画は  
「ユメジエホン」が史上初!!  
大正ロマンの寵児・竹久夢二が  
鬼才・古屋兎丸の漫画で令和の世に蘇ります!

1.2話を登録なし無料でお読みいただけます ↓  
<https://bigcomics.jp/series/b2d93c671e2d6>

展覧会についてのお問い合わせは

竹久夢二美術館 学芸員 石川桂子 までお願いいたします。

tel 03-5689-0462 fax 03-3812-0699

FAX 03-3812-0699

竹久夢二美術館 石川 行

あなたも目利きに！竹久夢二入門展  
－ 夢二絵の見かた&楽しみかた－

画像使用申込書

画像送付日 月 日 必着

掲載紙（誌）／番組名	
発売／放送予定日	
所属・ご担当者名	
ご住所 〒	
TEL	FAX
メールアドレス	

ご希望の図版番号に○をしてください。

図版番号（プレスリリースをご参照ください）									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	

読者プレゼント招待券（5組10名）	希望する	希望しない
-------------------	------	-------

通信欄

画像データの提供について

プレスリリースの掲載図版について、メールで画像データをお送りいたします。

ご希望の場合は、この申込用紙に必要な事項をご記入の上、

FAX(03-3812-0699)、もしくはメール ([yumeji-m@muse.ocn.ne.jp](mailto:yumeji-m@muse.ocn.ne.jp)／この申込書を添付) でお送りください。

また美術館写真（外観／展示室）等を必要とされる場合はご一報ください。

読者プレゼント用招待券のご提供について

読者プレゼント用にご招待券（5組10名様分）をご用意いたします。この用紙にてお申し込みください。

掲載紙（誌）ご送付のお願い

本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが掲載誌（紙）をお送りくださいますようお願い申し上げます。 〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-2 竹久夢二美術館 担当 石川宛